

こころ響く55の言葉

Japanese Boss

私たち上司はいつでもこの国の、日本代表です！

どれだけ時代が流れても
変わらない大切なことがある。がば_ん！ニッポ_りの上_ろ司

【言葉の主たち】

- No.1 松下 幸之助（パナソニック創業者）
No.2 小林 一三（阪急グループ創業者）
No.3 岡本 太郎（芸術家）
No.4 三浦 雄一郎（冒険家）
No.5 佐藤 初女（森のイスキア主宰）
No.6 矢崎 裕彦（矢崎総業会長）
No.7 岡田 武史（元サッカー日本代表監督）
No.8 エーリッヒ・フロム（社会心理学者）
No.9 フローレンス・ナイチンゲール（近代看護の創始者）
No.10 松井 秀喜（元大リーガー）
No.11 宮崎 駿（映画監督）
No.12 アインシュタイン（物理学者）
No.13 盛田 昭夫（ソニー創業者）
No.14 本田 宗一郎（ホンダ創業者）
No.15 笑福亭 鶴瓶（芸人）
No.16 マハトマ・ガンジー（インド独立の父）
No.17 アイルトン・セナ（故F1ドライバー）
No.18 佐々木 則夫（なでしこジャパン監督）
No.19 チャールズ・ディケンズ（作家）
No.20 ジョーゼフ・キャンベル（神話学者）
No.21 山中 伸弥（ノーベル生理学・医学賞受賞者）
No.22 スティーブ・ジョブズ（アップル創業者）
No.23 本田 宗一郎（ホンダ創業者）
No.24 P・F・ドラッカー（経営学者）
No.25 神谷 美恵子（精神科医）
No.26 新渡戸 稲造（倫理哲学者）
No.27 立石 一真（オムロン創業者）
No.28 鍵山 秀三郎（イエローハット創業者）
No.29 川口 淳一郎（「はやぶさ」プロジェクトマネジャー）
No.30 マックス・デプリー（元ハーマン・ミラー社CEO）
No.31 岡本 太郎（芸術家）
No.32 豊田 泰光（野球評論家）
No.33 工藤 公康（元プロ野球選手）
No.34 松下 幸之助（パナソニック創業者）

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|----------|
| No.35 | P・F・ドラッカー（経営学者） | No.53 | 村上春樹（作家） |
| No.36 | 盛田昭夫（ソニー創業者） | No.54 | 真山仁（作家） |
| No.37 | 池田守男（元資生堂社長） | No.55 | 望月勇（気功師） |
| No.38 | 寺田千代乃（アート・コーポレーション創業者） | | |
| No.39 | アインシュタイン（物理学者） | | |
| No.40 | 稲盛和夫（京セラ創業者） | | |
| No.41 | 渋沢栄一（実業家） | | |
| No.42 | 高倉健（俳優） | | |
| No.43 | アルベルト・ザツケローニ（サッカー日本代表監督） | | |
| No.44 | ステイブ・ウォズニアック（アップル創業者） | | |
| No.45 | 河合隼雄（心理療法家） | | |
| No.46 | ダニエル・ゴールマン（EQ理論提唱者） | | |
| No.47 | 司馬遼太郎（作家） | | |
| No.48 | 木内昇（作家） | | |
| No.49 | 鷺田清一（哲学者） | | |
| No.50 | 河合隼雄（心理療法家） | | |
| No.51 | 鍵山秀三郎（イエローハット創業者） | | |
| No.52 | イチロー（大リーガー） | | |

No.1

パナソニック創業者

松下 幸之助

「たとえみんなが反対しても、
みんなの気にさわるようなことでも、
教えるべきは正しく言っていること。
そして言うべきことは
断固言っていること」

『決断の経営』（松下幸之助 P H P 研究所）

言うべきことを言うのは、
時に、辛さをとまなう。
言うべき時に、
言うべきことを言わないと
その辛さは、まずばかり。
訊くは、一時の恥。
言うは、一時の辛さ。
言うべきことは、
言うべき時に言うのが、
美しい花のような
人の優しさ。

〈二日一問〉

私は言うべき時に、言うべきことを言っているだろうか？

No.2

阪急グループ創業者

小林 一三

「下足番を命じられたら
日本一の下足番になってみる。
そうしたら、
誰も君を下足番にはしておかぬ」

ひとつのコトを深めていくと、
多くのコトに通じていく。
多くのコトは、
ひとつのコトを通して
知ることができる。
道は、全てに通じている。

〈二日一問〉

『働く理由』（戸田智弘 Discover21）

私は、自分の仕事を深めているだろうか？

芸術家

岡本 太郎

「自分自身にとって
いちばん障害であり敵なのは、
自分自身なんだ」

『自分の中に毒をもて』（岡本太郎 青春出版社）

できない理由を探す自分が
そこにいたら、
敵と見定め、闘う勇気をもとう。
できる理由を探す自分が
そこにいたら
握手をして、互いに喜び合おう。
自分は敵になり、味方になり
障害になり、爽やかな追い風になる。

〈一日一問〉

私は、自分と闘っているだろうか？

No.4

冒険家

三浦 雄一郎

「人間の限界への好奇心がある。
夢があつて
あきらめなければ可以的」

自分のことは
自分がよく知っている。
でも、自分の限界は、
自分ではもつともよくわからない
人間の頼もしい可能性。
限界とは、
越えるために用意された
人生のハードル。

〈二日一問〉

私は、自分を頼りにできているだろうか？

『日本経済新聞』（2012.10.13付朝刊）

No.5

森のイスキア主宰

佐藤 初女

『幸せも安らぎも、
どこか遠くに求めるものではありません。
ちやうど、今に満足できることが
本当の豊かさであるように、
大切なのは「今、ここ」を
生きること』

『いまを生きる言葉「森のイスキア」より』（講談社）

過去は過去として受け入れ
未来は贈り物だと静かに眠る。
今。
今しかない、今。
過去でもない未来でもない
今にこそ、豊かさは宿る。

〈二日一問〉

私は、今この一瞬を大切にできているだろうか？

矢崎総業会長

矢崎 裕彦

「肩書きというのは
あくまでもその会社での役割であって、
人間としては本来平等なんだ」

「肩書き」にこだわると、

「肩が凝る」。

「肩書き」を武器にすると、

「肩身が狭くなる」。

「肩書き」で勝負すると、

「肩すかしを食らう」。

「肩書き」を捨てれば、

「肩で息」をしなくなる。

「肩書き」をとれば、

「肩が軽くなる」。

「肩書き」を放れば、

「肩入れ」してもらえる。

これ「肩書きの法則」なり！

〈一日一問〉

『致知』(2013.5月号 致知出版社)

私は、無駄に肩書きにこだわっていないだろうか？

No.7

元サッカー日本代表監督

岡田 武史

「スランプって何でしょうか。
単なる力や技術の衰えではないのです。
より高みへ羽ばたくために
乗り越えるべき壁ですよ」

スランプは、
前へ進むための向い風。
向い風を上手に利用すれば
より高く飛べる。
スランプは僕たちを
苦しめるために存在する悪魔ではなく、
より高みへいざなう
ちよつと怖い顔した天使である。

〈二日一問〉

『日本経済新聞』（2012.12/18付朝刊）

私は、結果でない時に、何を学んできたのだろうか？

No.8

社会心理学者

エーリッヒ・フロム

「たくさん持っている人が
豊かなのではなく
たくさん与える人が
豊かなのだ」

「もらう時の喜び」より

「与えた時の喜び」のほうが、

「喜び」は、

より長く持続し記憶に残る。

だから、豊かな人生とは・・・。

〈二日一問〉

私は、与える喜びを忘れていないだろうか？

『愛するということ』（エーリッヒ・フロム 紀伊国屋書店）

No.9

近代看護の創始者

フロレンス・ナイチンゲール

「最も幸福な人々、
自分の職業を最も愛する人々、
自分の人生に
最も感謝の念を抱いている人々」

『ナイチンゲールの言葉集』（現代社 薄井垣子編）

仕事は決して

よいことばかりではない。

よくないこともたくさんあり、

泣きたくなることも

山のようにある。

そんな仕事に、もし、

いつでも感謝することができたら

その人は、きっと

誰かから、

誰よりも感謝される人だろう。

〈二日一問〉

私は、仕事と人生に感謝できているだろうか？

No.10

元大リーガー

松井 秀喜

「僕は、生きる力とは、
成功を続ける力ではなく、
失敗や困難を乗り越える力だと
考えています」

失敗は、
人を落ち込ませ
やる気を失わせ、
心の底、深みへと連れて行く。
その深みでつかんだ何かは、
人の深みを醸し出す宝となる。
人生の底でしか育まれない
味わい深い
生きる力が、ある。

〈二日一問〉

『不動心』（松井秀喜 新潮社）

私は、失敗をどう乗り越えてきたのだろうか？

映画監督

宮崎 駿

「無名でおわってもかまわないと覚悟してこの仕事をして来ました。自分達の納得いく仕事を、少しでも実現することこそ願望でした」

仕事の報酬は、
自分の存在や
その仕事が広く世に
知れ渡ることではなく、
自分の仕事に納得できたか否かに
大きく左右される。
なぜなら、仕事の報酬とは、
最後の最後、
心へ届けられるものだからである。

〈二日一問〉

『折り返し点 1997～2008』（宮崎駿 岩波書店）

私は、自分の仕事に納得できるまで努力しているだろうか？

No.12

物理学者

アインシュタイン

「小さい問題を
なおざりにする人に、
大きい問題を
任せることはできません」

小さな問題は、
大きな問題の縮小した
予行演習。
小さな問題に真剣になれる人は、
大きな問題によって
さらに器の大きな人間になる。

〈二日一問〉

『アインシュタインにきいてみよう』（編訳 弓場隆 DISCOVER）

私は、小さな問題をバカにしていけないだろうか？

ソニー創業者

盛田 昭夫

「眠っている才能をたたき起こすのは、
自分自身の仕事である」

朝、心地よい眠りから
たたき起こされるのは、
仕事があるからだ。
それと同じように、
仕事は僕たちの眠った才能を
たたき起こしてくれる。

〈二日一問〉

『学歴無用論』（盛田昭夫 朝日新聞社）

私は、自分に眠る才能を信じているだろうか？

No.14

ホンダ創業者

本田 宗一郎

「自分の喜びを追求する行為が、
他人の幸福への奉仕に
つながるものでありたい」

つながっている。
どんな仕事も
誰かへと、社会へと。

つながっている。
どんな仕事も
幸せへと、笑顔へと。

つながっている。
仕事はつながり生まれる
幸せのかたち。

〈二日一問〉

『本田宗一郎「二日一問」』（本田宗一郎 PHP）

私は、自分の利益ばかり考えて仕事をしていないだろうか？

芸人

笑福亭 鶴瓶

「家をきれいにする、約束を守る、お礼の手紙を書く、そういう基本をきっちり続けることが、自分の型の基本をつくってくれたと思っています」

基本の「型」は、単純で個性がなくて、面白くないことが多い。でも、

その面白くない「型」を続けることで、個性的な自分の「型」ができる。個性は、没個性的な「型」によってこそ磨きあげられる。

〈二日一問〉

『日本経済新聞 NIKKEIプラス1』（2013.1.12付け 朝刊）

私は、基本の大切さを忘れていないだろうか？

（あとがき）

ありがとうございます。

名言の数々、いかがでしたでしょうか？

ここに登場した言葉たちは、私が運営するフェイスブック・ページ「[がんばれ！ニッポンの上司たち](#)」に登場したものです。名言の下にある言葉のほとんどは、この稿のために書き下ろしました。

名言の効用は、思考の視点を数秒で変えられること。

「こうだ」と思っていた、感じていたことが、

「そうだった見方もあるんだ」

と、自分の常識が心地よく壊されていくのは、心へのご褒美です。

拙著『バカと笑われるリーダーが最後に勝つ トリックスター・リーダーシップ』（ソフトバンク新書）もまた、この原稿に登場した言葉のような、リーダー、上司の皆さまにとって、良質な変化を促すきっかけになれば嬉しい限りです。

松山 淳

【著者プロフィール】

松山 淳（まつやま じゅん）

1968年 東京都生まれ。リーダーシップ・スタイリスト／コンサルタント／MBTI 認定ユーザー。

成城大学文芸学部卒。約9年間広告代理店に勤務後、[ア](#)

[ースリップ・コンサルティング](#)設立。

世界の企業が活用するMBTI®メソッドで自己分析を行い、リーダーたちがその人らしいリーダーシップを発揮できるようにサポートする。「リーダーの自己成長を支援し人と組織を元気にすることで 世界の家族にたくさんの笑顔をひろげる」を使命に、リーダー層（経営者、起業家、管理職）を対象とした個別相談、コーチング、研修、講演、執筆活動など幅広く活躍中。

〈著書〉『バカと笑われるリーダーが最後に勝つ トリックスター・リーダーシップ』（ソフトバンク新書）『名もなき人の生きるかたち』（文芸社）『上司』という仕事のつとめ方（実務教育出版）『真のリーダーに導く7通の手紙』（青春出版社）